

第36回全国選抜高校テニス大会  
出場校一覧(男子)

地区	県名	出場校				
北海道	北海道	①札幌日大【15回目/10年連続】②札幌藻岩【34回目/25年連続】 ③尚志学園【初出場】				
東北	青森					
	岩手	①岩手【13回目/2年連続】				
	宮城					
	秋田					
	山形	②日大山形【8回目/2年連続】				
関東	福島	③磐城【8回目/4年ぶり】				
	茨城					
	栃木	②足利工大付【15回目/2年連続】				
	群馬					
	埼玉	④川越東【4回目/3年連続】⑨浦和学院【25回目/2年ぶり】				
	千葉	⑦東京学館浦安【13回目/11年連続】⑧秀明八千代【5回目/2年連続】				
	東京	①東海大菅生【13回目/2年連続】③大成【4回目/3年連続】				
	神奈川	⑤湘南工大付【26回目/10年連続】⑥法政二【14回目/2年連続】				
北信越	山梨	⑩甲府一【5回目/3年ぶり】				
	新潟	②新発田【6回目/4年連続】				
	富山	④富山国際大付【11回目/2年ぶり】				
	石川	③金沢【6回目/4年連続】				
	福井	⑤北陸【6回目/2年連続】				
東海	長野	①松商学園【21回目/16年連続】				
	静岡	⑤浜松市立【4回目/3年連続】				
	愛知	②名経大市邨【9回目/9年連続】④名古屋【26回目/21年連続】				
	岐阜	③県岐阜商【15回目/4年連続】⑥麗澤瑞浪【9回目/2年連続】				
近畿	三重	①四日市工【33回目/11年連続】				
	滋賀	⑥光泉【8回目/6年連続】				
	京都	④東山【23回目/11年連続】⑦京都外大西【3回目/3年連続】				
	大阪	②大産大付【7回目/2年連続】⑤清風【36回目/36年連続】				
	兵庫	①相生学院【5回目/5年連続】③甲南【13回目/2年ぶり】				
中国	奈良					
	和歌山					
	鳥取					
	島根	③開星【5回目/2年連続】				
四国	岡山	①関西【33回目/14年連続】②岡山理大付【23回目/4年連続】				
	広島					
	山口	④宇部【初出場】				
九州	徳島	①城南【7回目/2年連続】				
	香川	②高松北【21回目/11年連続】				
	愛媛	③新田【17回目/2年ぶり】				
	高知					
九州	福岡	①柳川【35回目/5年連続】⑤折尾愛真【4回目/3年ぶり】				
	佐賀	⑦龍谷【13回目/2年連続】				
	長崎	③海星【20回目/3年連続】				
	熊本					
	大分	②大分舞鶴【14回目/8年連続】				
	宮崎					
	鹿児島	⑥鳳凰【14回目/12年連続】				
沖縄	④沖縄尚学【7回目/5年連続】					
補欠校		熊本工(熊本)	出場候補校合計	計	48	校

○内の数字は地区大会順位

シード校	東海大菅生(東京)、四日市工(三重)、相生学院(兵庫)、柳川(福岡)
選手宣誓校	甲府一(山梨)

第36回全国選抜高校テニス大会  
出場校一覧(女子)

地区	県名	出場校
北海道	北海道	①札幌清田【30回目/2年ぶり】②札幌日大【12回目/12年連続】
東北	青森	
	岩手	
	宮城	
	秋田	②聖霊女短大付【17回目/2年連続】
	山形	①日大山形【4回目/2年連続】
	福島	③日大東北【3回目/2年ぶり】④いわき光洋【初出場】
関東	茨城	⑦藤代【8回目/4年連続】
	栃木	
	群馬	⑧共愛学園【2回目/2年連続】
	埼玉	③浦和学院【25回目/3年連続】⑨早稲田本庄【初出場】
	千葉	①秀明八千代【6回目/6年連続】
	東京	②早実【8回目/3年連続】⑤富士見丘【21回目/8年連続】
	神奈川	④湘南工大付【19回目/5年連続】⑥白鵬女【初出場】
北信越	山梨	
	新潟	④新潟一【3回目/2年ぶり】
	富山	③富山国際大付【21回目/8年連続】
	石川	⑤星稜【28回目/10年連続】
	福井	①仁愛女【34回目/34年連続】
東海	長野	②松商学園【22回目/20年連続】
	静岡	③浜松市立【16回目/4年連続】⑤静岡市立【20回目/2年ぶり】
	愛知	①名経大高蔵【28回目/2年連続】②愛知啓成【初出場】
	岐阜	⑧恵那農業【初出場】
近畿	三重	④四日市商【12回目/4年ぶり】
	滋賀	⑥栗東【16回目/5年連続】
	京都	①京都外大西【6回目/6年連続】⑦立命館宇治【5回目/4年ぶり】
	大阪	④大商学園【3回目/3年ぶり】⑤城南学園【3回目/2年ぶり】
	兵庫	②相生学院【2回目/2年連続】③園田学園【35回目/35年連続】
	奈良	
中国	和歌山	
	鳥取	
	島根	
	岡山	②岡山学芸館【13回目/10年連続】④山陽女【31回目/3年連続】
四国	広島	③美鈴が丘【13回目/2年ぶり】
	山口	①野田学園【5回目/4年連続】
	徳島	
	香川	②高松北【19回目/3年連続】
九州	愛媛	①済美【14回目/2年ぶり】④松山西中等【初出場】
	高知	③高知【6回目/16年ぶり】
	福岡	⑥柳川【36回目/36年連続】⑦折尾愛真【13回目/3年連続】
	佐賀	
	長崎	②九州文化学園【2回目/2年連続】
	熊本	
	大分	
宮崎	③宮崎商【13回目/13年連続】	
鹿児島	④鹿児島純心女【17回目/2年ぶり】⑤鳳凰【21回目/19年連続】	
沖縄	①沖縄尚学【3回目/2年ぶり】	
補欠校		松江北(島根)
		出場候補校合計
		計
		48
		校

○内の数字は地区大会順位

シード校	秀明八千代(千葉)、名経大高蔵(愛知)、京都外大西(京都)、沖縄尚学(沖縄)
選手宣誓校	

## 第36回全国選抜高校テニス大会 選考委員会枠選出について

	県名	出場校	選考理由
男子	北海道	北海道尚志学園	初出場。札幌地区という非常にレベルの地域の中で、質の高いチームを作り上げた。ここ数年、着実に力を付け、出場することで北海道のテニスの活性化にもつながる。
	山梨県	甲府一	134年の伝統校。関東地区より唯一の県立高校のエントリー。青森インターハイの際にボランティア活動を行い、被災地、福島県のボールを贈る活動を行う。現在、その活動が県内にも広がり、テニスを通じての社会貢献を評価。
	福井県	北陸	133年の伝統校。高校からテニスを始めた生徒がほとんどで、従来型の部活動で成果を挙げた、手作りのチーム。高体連が目指す形のチームである。
	山口県	宇部	初出場。春から学校からテニスコートがなくなり、最寄のテニスコートを活用し、懸命に練習を行っている。ここ数年、着実に力を付けてきており、今や、テニスにおいて県内の中心校になるまでになる。

	県名	出場校	選考理由
女子	福島県	いわき光洋	初出場。コートが学校にない中、公営のコートを借りて部活動を行う。その中で県大会で初優勝を飾る。ほとんどの生徒が市外からバスで通学しないといけないという条件の中、限られた時間を有効に活用し、東北地区大会でも活躍。
	岐阜県	恵那農	岐阜県内でも山間部に位置する学校。農業高校という女子生徒が少ない中でテニス部を結成。学校の特性上、実習などの制約が多く、5時過ぎからしか練習ができないという条件の中、強化を図ってきた。さらに花の栽培などにおいて地域の方々と非常に密着した学校でもある。
	愛媛県	松山西中等	公立の中高一貫という新しいスタイルの学校。クレーコートが2面しかない中、54人の部員が練習。少子化の時代、多くの部員を抱え、テニスの普及、発展に努めている。その中で、愛媛県においても上位クラスの成績を収め、頑張っている学校。
	福岡県	折尾愛真	大会が福岡市に移り、個人戦が行われるようになって継続して補助員を出すなど、大会を裏から支えてくれている学校である。さらに、県内で行われる国際車椅子テニス大会にも補助員を出すなど、地域のテニスに関する貢献度も高い。高校からテニスを始める生徒が多い中、熱心に指導し、非常に高いレベルのチームを作り上げている。